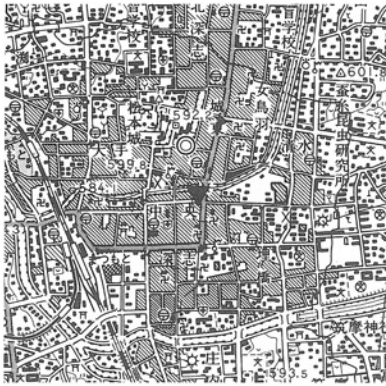


まつもとじょうかまち なかまち
長野・松本城下町跡中町

- 1 所在地 長野県松本市中央三丁目
- 2 調査期間 第三次調査 二〇〇二年(平14) 四月
- 3 発掘機関 松本市教育委員会
- 4 調査担当者 竹内靖長・栗田幸信・菊池直哉
- 5 遺跡の種類 城下町(町屋)跡
- 6 遺跡の年代 一七世紀～一九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(松本)

松本城下町跡中町は、本町・東町とともに、いわゆる親町の一つとして、町人町の軸をなしていた。また、善光寺街道沿いに位置し、種々の品目を取り扱う問屋が集まり、本町とともに内外の商品流通の拠点としての役割を果たしていた。

今回の調査地は、享保九年(一七二四)の史料(河辺家文書)によると、中町の東端から二軒目の漆屋にあたる。調査では、一七世紀

前半から一九世紀後半の整地層を五層確認した(現地表下一四〇cm)。調査は第五検出面までにとどめたが、トレンチ調査により城下町形成初期の生活面の遺存を確認した(現地表下一六五cm)。検出した遺構は、土坑・ピット・建物・溝状遺構などで、城下町形成時から近代までの町屋の変遷を、良好な状態で明らかにできた。

木簡は、第一検出面の土坑から六点出土した。第一検出面は元治二年(一八六五)の火災のものと考えられる火災焼土層である。(1)は、廃棄土坑と考えられる土坑一から、(6)は埋設桶の設置された土坑四から出土した。伴出遺物には、陶磁器(瀬戸美濃産・肥前産・京都産・信楽産)、木製品(漆碗・箸・曲物・扇子・刷毛・下駄・独楽)、金属製品(煙管・銭貨・火打ち金具)、土器(土師器皿・焙烙鍋)がある。これらは全て火災後に廃棄された一括遺物である。

8 木簡の釈文・内容

土坑一

- (1) ・「焼印」
254×(31)×20 081
- (2) ・「中八」
233×(28)×8 081

(1) (3)は荷札と考えられるが、縦に半裁されており、また重ね書きや墨痕の流失により判然としない。(3)は、左寄りに等間隔に三カ所孔があげられている。(4)(6)は用途不明。(5)は位牌か。その死に様を彷彿とさせる戒名であるが、実際に使用されたものかどうかはわからない。

(太田万喜子)

(6)  206×28×4 051

土坑四

・「行年四十一歳」(左側面) 80×34×20 061

(5) ・「大喰院頓死居士
俗名長平大部」

・「神」 (107)×57×2 019

(4)  「帳カ」

(3)  川口信州仁科  「大町カ」
255×(25)×7 081

